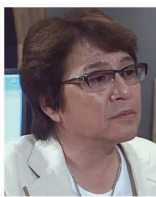


mamacha music column

Najki's Eye



NAIKI AKIRA
内記 章

1953年 東京生まれ。音楽ジャーナリスト。小学1年の時、父親の転勤で札幌へ。札幌北高、日大卒業後芸能プロダクションを経て1976年より、札幌で音楽業界紙の記者となる。1982年、オリコン入社、札幌支局長勤務の後、2001年より東京本社勤務。広報企画部長、執行役員歴任の後、2005年同社を退社。2006年札幌でオフィス・ナイキを設立。音楽ジャーナリストとして、新聞、雑誌連載を始め、テレビ、ラジオへのレギュラー出演や、音楽専門学校の講師のほか、オーディション、コンテスト等の審査員、各種コーディネイトやプロモーション等で幅広く活躍中。

著 書



「北の音楽戦士たち」
(中西出版)

北の“音楽業界”今、昔と北の音楽戦士たち27人。豊かな土壌で実った北の音楽事情とは。

今月の一枚



バラード

「Ballada」

安室 奈美恵

安室奈美恵初のバラードベストアルバム「Ballada(バラード)」がオリコン週間アルバムランキングで初登場首位を獲得した。

ファン投票による人気バラード上位15曲が収められているが、今回あらたにレコーディングしなおした2作品のうち「SWEET 19 BLUES」では若かった自分への愛おしささえ匂わすような、彼女の優しい視点が感じられる。今だから出来る表現だろう。また「CAN YOU CELEBRATE」は今回葉加瀬太郎をフィーチャーして生まれ変わったが、もろさやはかなさと背中合わせのしなやかな力強さも感じさせる歌い方に、二回り大きな包容力のようなものが加わった。凛として美しいこの1曲の出来が、アルバム全てを物語っている。

思えば10代でデビューした彼女は、そのファッションやスタイルに「アムラー」なるフォロワーを生み出すほどのカリスマ性があり、実際の彼女は今にも折れそうなくらい華奢な少女だったが、ステージの上では強烈な輝きを放っていた。余談だが、当時小学6年生だったわが娘もその虜になり、せがまれて真駒内アイスパリーナで行われたコンサートに連れていったのが、唯一父娘で出かけた記憶である。その娘もやがて母になる。

一児の母でもある彼女が、自身の成長をそのままアーティスト力として備え、その身体からは想像もつかないスケールをうちに秘めていることを示した。あらためて彼女のバラードが名曲揃いだと気付く、味わい深い大人のアルバムである。